

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
273	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Adult mortality attributable to preventable risk factors for non-communicable diseases and injuries in Japan: a comparative risk assessment. 非伝染性疾病と傷害における日本の成人死亡寄与・予防リスク因子：相対的リスク検証	
執筆者	
Ikeda N, Inoue M, Iso H, Ikeda S, Satoh T, Noda M, Mizoue T, Imano H, Saito E, Katanoda K, Sobue T, Tsugane S, Naghavi M, Ezzati M, Shibuya K.	
掲載誌	
PLoS Med. 2012 Jan;9(1):e1001160.	
キーワード	
リスク因子、期待余命、喫煙、高血圧、飲酒、健康増進	
要旨	
<p><b>目的：</b> 日本は世界で最も長寿な国民を有する。公衆衛生の観点からさらなる改善を目指すには、健康の施策やプログラムに優先順位をつける意味で、死亡寄与度から予防リスク因子に関する矛盾のない、相対的なエビデンスが必要である。過去に実施された数々のスタディーにおいて個人におけるリスク因子の影響を定量評価されてきたが、我々の見解では標準的枠組を用いた非伝染性の疾病と傷害に対する多数の調整リスク因子の効果を比較検証したものは存在しない。日本の特定要因死と期待余命に関する 16 のリスク因子の効果について推定した。</p> <p><b>方法：</b> 国民健康栄養調査と疫学研究から、リスク因子に関するデータと疾病コードにより調整された死亡記録から特定要因死の数に関するデータ、疫学研究とメタ分析から相対リスクに関するデータを収集した。40 歳における死亡の余リスク効果と推定余命を推定するために相対的なリスク検証の枠組を適用した。</p> <p><b>結果：</b> 2007 年における 129,000(95% CI: 115,000-154,000)の死亡例は喫煙、104,000 (95% CI: 86,000-119,000)の死亡例は高血圧、52,000 (95% CI: 47,000-58,000)の死亡例は身体不活動、34,000(95% CI: 26,000-43,000)の死亡例は高血糖、34,000(95% CI: 27,000-39,000)の死亡例は塩分過剰摂取、31,000(95% CI: 28,000-35,000)の死亡例は飲酒によって占められた。この十年、高齢者において高血圧が原因となる脳卒中による死亡は減少した一方で、喫煙が原因となるがんによる死亡が増加した。2007 年における 40 歳における期待余命は、多数の循環器リスク因子に対する暴露が理論的最低リスク暴露分布に基づく理想的なレベルまで減っていれば、男性で 1.4 年(95% CI: 1.3-1.6)と女性でも 1.4 年(95% CI: 1.2-1.7)伸びたと想定される。</p> <p><b>結論：</b> 日本で喫煙と高血圧は、非伝染性の疾病と傷害を対象とする大人の死亡における 2 大リスク因子である。多数のリスク因子を一緒に管理することにより、国民全体の健康増進に大きな可能性が存在するといえる。</p>	